

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.87

2007/02/15

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

朝日に照らされた南部湿原 (07/02/07)

結模様が創り出している。

このニュースを編集している 14 日には、大型の低気圧が通過するとの予報で、降雪によりまたまた景観が一変するかも知れません。異常気象がもたらす春の生物界の動きをつぶさに観察したいものです。原子炉の破壊で使われる言葉に「メルトダウン」というのがありますが、気候変動期には、生物界にもそんな急激な変化が起こるかも知れません。こんな時期であるだけに「山門水源の森」の多様な生物の保全には格別の注意をはらい、希少種となったものについては「種の保存」に全力を傾けたいものです。

そのためには、各種の保全作業が欠かせません。一層のご協力をお願いします。



2月の降雪の中央湿原 (07/02/03)



ブルテの凍結が盛り上がる南部湿原 (07/02/07)



花芽が膨らんだイワナシ (07/02/07)





下草刈り作業開始 ( 07/01/21 )



間伐 ( 07/01/25 )



松葉掻き ( 07/01/25 )



林床整備完了 ( 07/01/26 )

## 林床の保全作業大いに進展

暖冬は生物にとっては大問題なのだが、保全活動には最適である。例年は 1m を超す積雪で保全作業はストップ。だが今年は作業が大いに進展した。荒れ放題の林床の下草刈り・間伐が予想以上に進展した。観察コースの峠（地点）から湿原までの観察コース沿いの林床と南部湿原西側山地斜面の林床が里山らしく再生した。作業をしつつ、これがかつての里山と作業する仲間との会話も楽しい。刻々と姿を変える作業は、保全活動の楽しさとともに、かつての里人の仕事ぶりを思い出しつつ、このような作業そのものも次の世代に引き継ぎたいと思う。

3月25日の保全作業では、間伐したコナラに「椎茸菌を打つ作業」や「柴の束づくり」（フジ蔓を使った）を会員の皆さんに体験してもらう計画をしている。菌を打った原木は現地に置いておき、発生すれば訪問者が自由に採取して持ち帰ることができるようにと考えている。「柴の束」は現地に野積みして、観察の材料に、また間伐材の一部は「炭窯跡」に詰めて炭焼き当時の状況を復元したいと考えています。是非この機会に里山の生活を体験してください。



炭窯跡周辺の作業後の景観 ( 07/01/25 )



南部湿原西側のすっきりした景観 ( 07/02/13 )